

図書館だより

雲藩列士録を読む

松江市文化財審議委員

乾 隆 明

ひさしぶりに松江へ転勤で帰ってきた友人A氏が「自分の家は百石で江戸詰めをしていたと聞いたが、詳しく知りたい」と相談して来た。大好きな調査なので二つ返事でひきうけ、県立図書館郷土資料室へ出向き「雲藩列士録」で探すことにした。この書類は全57冊という膨大なもので、いろは順におよそ千軒ものご家中（足輕をのぞく）について初代から明治維新までの系譜や勤功がくわしく記してあり、しかも公文書としてわかりやすい御家流で書いてあるため、よみかたに慣れると専門家でなくても理解がはやい。該当箇所をコピーにとってもらい二人で額をよせて読みはじめた。

その家の初代は信州松本で直政公に召し抱えられてから、主に江戸屋敷にあってさまざまな仕事をしている。奥方様ご逝去を知らせる早継ぎの使者にたった人。不昧公の隠居所である江戸大崎別邸の責任者でお茶道具の管理に当たった人。若殿やお姫様のお気に入りですら表向きの役職を勤めながら終生奥向き御用も兼任した人。火消し役を仰せつかった人のくだりを読むと「天保九戊戌年二月十七日曉 青山数寄屋町出火 青山お屋敷火消し御人数召し連れ罷り出で 赤松次郎殿お屋敷へ御人数あい懸り候ところ 消し止めるについて御褒美くだしおかる」というような勇ましい著述があふれている。黒船が来た時の人は横浜本牧警備を

つとめ、幕末には長州戦争に参戦した人もいる。わずか一軒の中級武士の家だけ見ても、時代のうねりのなかで自分の役割を果たしながら生き、職場や家族とともに歴史を乗り越えていることに心を打たれるおもいがする。

閉館後も中庭へ出て藤棚のしたで解説をつづけた。新しい発見ががつぎつぎにあらわれ、思わず歓声をあげながら夕暮れのなかでA氏と一緒にタイムマシンで航行しているような気分を味わった。ビジネスマンである彼は自分で解説した列士録をパソコン処理し「定府」「組付」「衣紋方」「手形判形役」というような歴史言葉をしらべて注釈もつけ、一冊の家譜をつくらうとしている。おそらく彼は子孫にご先祖のことを誇らしく語り伝えることだろう。そしてあのミミズののたくったような古文書が読めるようになった時、別な新しい世界が開けたのを感じた事実も語り伝えるに違いない。

天保五年二月、江戸の大火で松江藩上屋敷は膨大な文書とともに焼け落ちてしまっている。焼け残りの資料をかき集めて整理し、苦勞の末に現存している「雲藩列士録」を完成させたのは御書所・列士録掛の右筆衆達である。彼等は百五十年後の松江で、夕闇迫る図書館の中庭で興奮しながら記録に見入っている二人の男を何とみるだろうか。

シンポジウム—図書館のあるくらし—

開 催

11月27日、サンラポーむらくもを会場にシンポジウム—図書館のあるくらし—が開催され、約 200人の参加者で賑わいました。

当日は、短編集『ナポレオン狂』で第81回直木賞を受賞、以後、ミステリー、恋愛小説、エッセイ等、幅広い作風で活躍中の作家、阿刀田高氏を講師に迎え、「読書の楽しさ」と題した講演、及び慶子夫人による朗読をいただきました。午後、図書館のあるくらしをテーマに、コーディネーター藤澤秀晴氏（平田市立図書館長）の進行で、パネリスト 3 氏、山本哲生氏（日本図書館協会参与）、斎藤単司氏（益田市立図書館長）、妹尾光代氏（伯太町赤屋子ども読書会リーダー）の発表、及び会場の参加者との意見交換が行われました。

講演では、阿刀田氏が作家になるまでの生い立ち、〔朗読『煮魚と漏電』〕、自分の作風、読書論について語られました。

【要旨】

氏が小学校高学年の頃に隠れて見た『世界裸体美術全集』はルネサンス（14世紀末から16世紀初め、全ヨーロッパに広がった芸術・文化の革新運動。ギリシャ神話の神々をモチーフに絵画、彫刻などがさかんに作製された。）のものが多く載っており、裸体画を楽しんでいたが、自然とギリシャ神話にもくわしくなっていた。

本好きだったが、それを活かそうという気はなく、将来は理科系へ進み、技術者になろうと思っていた。結果は、苦労して国立国会図書館へ就職したが、雑文書きのア

ルバイトを続けるうちに、11年勤めた図書館をやめ、フリーの文筆家になった。

小説を書き始めたのはフリーになってからだが、納得のいくものが書けるようになったのは3、4年後。比較的短い期間で書いたのは、仏文学専攻だった大学時代、2年間の療養生活の間に飽きるほど読んだ欧米の短編小説が、脳みそを小説を書くためのものに変えていたからと思える。

《慶子夫人による朗読『煮魚と漏電』》

氏の作品はアイデアストーリーであり、読者のイマジネーションを利用して結果（落ち）を導き出す技法である。

読書は、読みたい、楽しいと思えることが大事だと思う。氏が印象に残っている本は「落語全集」「銭形平次捕物帳」「芥川龍之介」の三つだが、どれも大学生までにたどおもしろいから読んだもの。それが現在の作風に影響している。

小説の存在理由の一つにエンターテインメントとしての役割があるが、学校では教えていないようだ。まず楽しみながら、読書習慣をつけることが重要と思う。

テレビは感性的に触発してくれるが、クリエイティブには役立たない。本からの情報は正確なデータとして再生産に役立つ。

活字の力なしでは情報になるものを得られない。活字の文化は決して衰えないと思う。

文責 県立図書館普及係



『青銅祭器と原出雲』

講師：速水保孝氏

とき：平成9年3月8日（土）

午後2時～4時

ところ：島根県立図書館 集会室

問合せ：県立図書館普及係

Tel 0852-22-5729

入場無料です。

整理券はありませんのでご自由に入場

ください。



☆講師紹介

大正9年加茂町生まれ。旧制松江高校卒、東京大学大学院修了。国務大臣秘書官等を経て、昭和27年島根県庁に入り、厚生部長、県立図書館長など歴任。主な著作に『出雲の歴史』、『出雲祭事記』、『出雲の迷信』、『原出雲王権は存在した』

『銅鐸出土の加茂岩倉遺跡は、何を語る』などシンポジウム出席。

子ども読書講演会

『絵本・愛の体験』

講師：松居 友氏

とき：平成9年2月14日（金）

午前10時～12時

ところ：西部読書普及センター

（浜田教育センター内）

問合せ：県立図書館普及係

Tel 0852-22-5729

入場無料です

☆講師紹介

1953年、東京都生まれ。現在、北海道千歳で児童文学や評論を執筆。作品に「ほのおのとり」、評論に「わたしの絵本体験」など多数ある。

平成8年度

公共図書館職員実務研修及び公開講座

「インターネットと図書館」

・公共図書館及び公民館図書室の初任者職員を対象に実務研修を行います。

とき：平成9年2月5～7日

ところ：島根県立図書館

問合せ：県立図書館普及係(0852-22-5729)

・市町村教委、公共図書館及び公民館図書室等の職員を対象に公開講座「インターネットと図書館」を開催します。

講師：井上睦英氏

（県情報システム課課長補佐）

とき：平成9年2月7日 午前10時～12時

ところ：島根県立図書館

行事予定

2月



1 古文書を
読む会(近世)
14:00~16:00

2	3 休館日	4	5 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	6	7	8
9	10 休館日	11 休館日 建国記念の日	12 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	13 「万葉集」を 読む会 14:00~16:00	14 「出雲國 風土記」を読む会 13:00~15:00	15 古文書を 読む会(中世) 13:30~15:00
16	17 休館日	18 成人読書会 13:00~15:00	19 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	20	21	22 子ども おたのしみ会 10:00~11:30
23	24 休館日	25	26 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	27	28 月末 休館日	

○館内展示……「世界の神話と歴史を探る」

3月



1 古文書を
読む会(近世)
14:00~16:00

2	3 休館日	4	5 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	6	7	8 文化講演会 14:00~16:00
9	10 休館日	11 成人読書会 13:00~15:00	12 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	13 「万葉集」を 読む会 14:00~16:00	14 「出雲國 風土記」を読む会 13:00~15:00	15 古文書を 読む会(中世) 13:30~15:00
16	17 休館日	18	19 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	20 休館日 春分の日	21	22 子ども おたのしみ会 10:00~11:30
23	24 休館日 25 休館日	26 親子で 絵本を読む会 15:00~15:40	27	28	29	30

○館内展示……「受賞作品展」

※各種講座は講師の方の都合により変更する場合があります。

利用案内

●休館日

毎週月曜日・国民の祝日
毎月末日(月末が日曜日にあたるときはその前日)
年末年始 12月28日~1月4日
図書整理休館(年2回、それぞれ10日間)

●開館時間 9時~18時

ただし、子ども室は火曜日~土曜日は13時~18時
(第2・第4土曜日・日曜日および小・中学校の春・夏・冬休み期間中は)
午前9時から開きます。

●貸出し

冊数…5冊以内
期間…15日

編集発行 島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL0852-22-5725

発行日 平成9年1月28日

FAX0852-22-5728